

海外研修報告書

2014年3月17日

駒井 睦子（中南米）

私は2014年2月から3月にかけて、「卓越した大学院拠点形成支援補助金」をうけ、アルゼンチン共和国において博士論文作成に必要な研究資料の調査および収集を行った。以下はその報告書である。

1. 滞在期間：2014年2月25日～2014年3月10日（現地時間）
2. 滞在場所：アルゼンチン共和国ブエノスアイレス市
3. 研究目的：詩人アルフォンシーナ・ストルニ（*Alfonsina Storni*:1892-1938）に関する文献調査・収集ほか

今回の調査のほとんどは、ブエノスアイレス市内にあるアルゼンチン国立図書館（*Biblioteca Nacional de la República Argentina*：住所 *Agüero 2502, Buenos Aires*）にて行われた。研究者として事前申請し、登録された人だけが入室できる地下の「定期刊行物資料室」（*Hemeroteca*）では、詩人ストルニの作品が多数掲載された文芸誌を閲覧、電子データを収集することができた。特に重要な文芸誌『我ら』（*Nosotros*）の1935年以降に出版された巻号は、日本国内の図書館には保有されていないため現地での調査が必要であった。ストルニの死去直後の1938年10月号は、追悼文が多数寄せられた貴重な資料である。また、マイクロフィルムにて保存されている文芸誌『船首』（*Proa*）においては、ストルニの同時代の詩人の活動の様子も明らかになり、当時の前衛運動の内容を詳しく知ることができた。図書館のみならず、ブエノスアイレス市内の新／古書店・古本市場を訪れ、必要な書籍を30冊ほど入手することもできた。今後はこれらの資料を分析し、博士論文に生かしたい。

その後、チャカリータ墓地（*Cementerio de Chacarita*：住所 *Av. Gusmán, Buenos Aires*）にある、ストルニの石像が築かれた墓を訪ねたが、ひときわ目立つものであった。また、カフェ・トルトーニ（*Café Tortoni*：住所 *Av. de Mayo 825, Buenos Aires*）も訪問した。現在は観光スポットとして人気のそのカフェは、かつてストルニをはじめとした芸術家たちが集った場所である。内部にはストルニや多くの作家・芸術家の人形、彫像、写真、肖像画が飾られ、奥の小部屋には「サロン・アルフォンシーナ」（*Salón Alfonsina*）と名付けられていた。ストルニが現在でも愛されている、国民的な詩人であることを窺い知ることができた。

今回の調査では、上記のような実り多い結果を得ることができた。それもひとえに「卓越した大学院拠点形成支援補助金」のおかげと深く感謝申し上げる。また事務手続きで大変お世話になった遠藤智代氏にも、心からの謝意をお伝えしたい。



アルゼンチン国立図書館

ストルニの墓に建てられた石像